

ソウル-東京 友情ウオークの主な経由地



朝鮮通信使 ウオーク出発

50日かけ東京へ

【ソウル1日共同】

江戸時代に日本と朝鮮半島を結んだ朝鮮通信使の旅した約二千キロの道のりをたどる「ソウル-東京 友情ウオーク」が一日、ソウルの

旧王宮、景福宮を出発した。各地で記念行事などを行いながら約五十日間をかけて歩き、五月二十日の東京到着を目指す。

日本ウオーキング協会と韓国体育振興会などが主催する同ウオークは、二〇〇七年春にも実施され、今回が二回目。途中合流も含め、

六十七十年代を中心に。過去のことは忘れて、日韓が新しい道をウオーカーが参加する。

出発式では、同ウオークを率いる韓国体育振興会の宣相圭会長が「これから歩く道は、戦争の記憶とともに、平和を結ぶ道でもあり、過去のことには忘れて、日韓が新しい道を開いていかななくてはならない」とあいさつ。

日韓から集まった約四十人が、韓国の伝統芸能サムルノリの演奏に導かれて景福宮を後にした。